
第 12 回森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道

開催要項

1. 趣 旨
デンマークやドイツで広がった「森のようちえん」（自然体験活動を基軸にした子育て・保育・乳幼児の教育の総称）は、我が国でも、平成 17 年から毎年、「森のようちえん全国フォーラム」等が開催されるなど、着実に広がりをみせています。
こうした中、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援制度」が、平成 27 年 4 月に本格スタートし、鳥取県では「とっとり森・里山等自然保育認証制度」が、長野県では「信州型自然保育認定制度」が創設されたりするなど、「森のようちえんの制度化」といった新たな展開が始まっています。
このように、人格形成に必要な様々な能力を獲得するために、特に幼児に対する自然体験活動の場と機会はとても重要である、と言われ、様々な活動が展開され始めましたが、その実数はまだまだ不足しているのが現状です。
そこで、今後そのような場と機会を創出するためにどのような手法、環境、体制が必要なのかを立場を超えて意見交換及び共有を図ることで、持続可能な「森のようちえん」という場と機会を創出するためのきっかけ作りや機運醸成、アクションを促します。そして、全国各地で「森のようちえん」の実践をさらに活発化させ、社会的認知度の向上に寄与します。
2. テーマ 森のようちえんを開拓する。森のようちえんで開拓する。
3. 期 日 平成 28 年 11 月 4 日（金）・5 日（土）・6 日（日）
4. 会 場 南北海道大沼婦人会館・林業研修センター（基調講演・全体会）
大沼国際セミナーハウス（分科会）
大沼流山牧場「Paard Musée（パド・ミュゼ）」（分科会・プログラム提供）
5. 主 催 第 12 回森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道実行委員会
森のようちえん全国ネットワーク
6. 共 催 公益社団法人国土緑化推進機構
7. 後 援 内閣府 文部科学省 厚生労働省 林野庁 北海道 北海道教育委員会
七飯町 七飯町教育委員会 北斗市 北斗市教育委員会 函館市 函館市教育委員会 公益社団法人北海道私立幼稚園協会 一般社団法人七飯大沼国際観光コンベンション協会（※一部申請中）
8. 特別協賛 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

9. 協 賛 コールマンジャパン株式会社 株式会社モンベル

10. 協 力 パタゴニア日本支社

11. 対 象 「森のようちえん」の実践者及び興味関心のある者 幼児教育・保育・子育て支援等の実践者・行政関係者・研究者・学生 青少年教育施設職員 自然体験活動団体や森林環境教育団体等のスタッフ 「森のようちえん」を活用した活動に興味関心のある団体

12. 定 員 全日程参加定員 200 名 日帰り参加定員 50 名 (各日)

13. 内 容

(1) 日程

【11月4日(金)】

12:00～ 受付開始 (北海道大沼婦人会館・林業研修センター)

時間	プログラム	内容
13:00～13:30	開会式	(1)実行委員長開会あいさつ いぶり自然学校 上田融 (2)共催者あいさつ 公益社団法人 国土緑化推進機構 (3)来賓あいさつ 七飯町長 中宮 安一 (予定)
13:30～14:10	基調講演	「森のようちえんの【前】と【前】」 どさんこミュゼ (株) 代表取締役社長 宮本 英樹
14:10～14:40	基調報告	「森のようちえん」を取り巻く最新情勢 ～官学民連携の研究会による国内外調査で見えてきたもの 公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 梶谷 辰哉
14:40～15:30	パネルディスカッション	「協働で拓く「森のようちえん」の未来」 森のようちえん全国ネットワーク 運営委員長 飯綱高原ネイチャーセンター 内田 幸一 どさんこミュゼ (株) 代表取締役 宮本 英樹 公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 梶谷 辰哉
15:40～16:00	オリエンテーション	「参加者が自律的に学びを取りに行く」というフォーラムのスタンスについて。他移動方法、スケジュールなど
16:00～18:00	宿舍移動・休憩	
18:30～21:00	ナイトセッション「親子に優しい情報交換会」 (大沼流山牧場「Paard Musée」にて夕食付き情報交換会) 出店方式による夕食提供 子どもと楽しめる焚き火ゾーン フリー分科会・PR ゾーン設置	
21:00～	随時宿舍へ移動	

<託児>1歳～2歳を対象 13:00～16:00 全体会場 (婦人会館) にて実施

<3歳～小学生向けプログラム>13:00～16:00 「野あそび」婦人会館及び大沼周辺散策

※プログラムは、天候状況などにより変更することがあります。

【11月5日(土)】

時間	プログラム	内容		
		各宿舍で生活、準備、分科会会場へ移動		
9:00～10:40	分科会 A	婦人会館	国際セミナーハウス	Paard Musée

10:40～11:30	移動・休憩			
11:30～13:10	分科会 B (弁当配布)	婦人会館	国際セミナーハウス	Paard Musée
13:10～14:30	移動・休憩		分科会会場の割り振りは 現在調整中	
14:30～16:10	分科会 C	婦人会館		Paard Musée
16:10～18:30	移動・休憩			
18:30～20:30	夕食・情報交換会	情報交換会は全大会会場（婦人会館ホール）		
20:30～23:00	随時宿舎へ移動			

<託児> 1歳～2歳を対象 各分科会会場（3箇所）にて実施

<3歳～小学生向けプログラム>大沼流山牧場 Paard Musée 内「牧場のこども園」8:30～16:10

※プログラムは、天候状況などにより変更することがあります。

【11月6日(日)】

時間	プログラム	内容
		各宿舎で生活、準備、全体会会場へ移動
9:00～9:40	全体会①	各団体からの情報提供及びリレートーク（予定）「それぞれのセクターのキーパーソンは、次に何を企てている？」
9:50～10:40	全体会②	参加型振り返りとアクション宣言 (1) 森のようちえんに期待する方からのエール (2) 参加者同士による成果発表と共有 ・私が決めたゴール ・私が取り組むアクションプラン
10:50～11:20	閉会式	(1) 全国ネットワーク運営委員長挨拶 内田 幸一 (2) 次年度開催地挨拶
11:20～11:30	事務連絡 解散後の案内	
11:30	解散	弁当配布（希望者；事前予約）
13:00～14:00	全国ネットワーク総会	

<託児> 1歳～2歳を対象 8:30～11:30 全体会会場（婦人会館）にて実施

<3歳～小学生向けプログラム>9:00～11:30「野あそび」婦人会館及び大沼周辺散策

※プログラムは、天候状況などにより変更することがあります。

(2) 各講座の紹介

【基調講演】

タイトル：森のようちえんの【前】と【前】
講師：どさんこミュゼ株式会社代表取締役社長 宮本 英樹（みやもと ひでき）
北海道における「森のようちえん」の仕掛け人であり、現在は牧場経営者である宮本氏。幼児向け自然体験活動「森のようちえん」をとことんまで追求した結果牧場経営に行き着いた、というユニークなプロセスを歩んでいらっしゃいます。「今」までの森のようちえんと「今」の森のようちえんについてお話しいただき、「これから」についての創造的な思考を引き出すようなお話をさせていただきます。

【基調報告】

タイトル：「森のようちえん」を取り巻く最新情勢 ～官学民連携の研究会による国内外調査で見てきたもの
講師：公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 梶谷 辰哉（かじや たつや）
国土緑化推進機構では、官学民の参画を得て「森のようちえん」の社会化に向けて研究会を設置し

て、教育的効果の先行研究、行政の支援施策から都市の子育て世代のニーズ調査まで、様々な調査を行ってきています。そこで、それらの結果とともに、昨今の地方創生や教育改革の動向から見えてくる「森のようちえん」の意義と可能性等について、話題提供していただきます。

【パネルディスカッション】

タイトル：「協働で拓く「森のようちえん」の未来」

講師：森のようちえん全国ネットワーク 運営委員長

飯綱高原ネイチャーセンター 内田 幸一（うちだ こういち）

どさんこミュゼ株式会社 代表取締役社長 宮本 英樹（みやもと ひでき）

公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 梶谷 辰哉（かじや たつや）

「森のようちえん」への社会への関心が高まる中で、官学民の多様な主体による「森のようちえん」の取組がはじめています。

そこで、幼児教育の現場で森のようちえんを突き詰めている内田氏、観光・交流の観点から森のようちえんを多面的に広げている宮本氏、森づくりや国民運動という視点から多角的な森のようちえんの支援を取り組む梶谷氏の三者により、協働で拓く「森のようちえん」の社会化の可能性についてディスカッションします。

【分科会】

タイトル：A1 【森のようちえんの社会化①（北海道型）】

既存幼稚園による「森のようちえん」的活動の展開—札幌トモエ幼稚園・恵庭幼稚園の実践から—

講師：宮武大和（みやたけやまと）学校法人 創造の森学園 札幌トモエ幼稚園 主任教諭

井内 聖（いうち せい）学校法人リズム学園（恵庭幼稚園 はやきた子ども園）学園長

上田 融（うえだとおる）NPO 法人いぶり自然学校 代表理事

札幌トモエ幼稚園は、札幌市の市街地から真駒内の森の中に移転して、子どもも大人も心身ともに健やかに生活することを目指し、園児だけでなく家族も毎日一緒に登園できる環境をつくることで、保護者の方の参画を促しています。豊かな自然環境と大家族のような人間関係の中で、家族の成長を支える実践について報告してもらいます。

また、200人の園児を抱える恵庭幼稚園では、地域から森林を借り受け、外部から指導者を呼んで自然体験活動を展開することで、より多くの幼児や保護者にその意義を伝えています。このような取り組みから、北海道特有の「森のようちえんの社会化」のヒントを探ります。

タイトル：A2 森のようちえんの運営と管理

講師：内田幸一（うちだこういち） 森のようちえん全国ネットワーク、飯綱高原ネイチャーセンター

1983年より森のようちえんの活動を長野県飯綱高原で開始、その他小中学生の野外活動や学校づくりにも関わる。現在は南信州飯田市近郊で新しい森のようちえんを運営し、森のようちえんの指導者養成等も行っている。

森のようちえんを作りたい方のための具体的なノウハウとそれを運営して行くための様々な問題をどう解決して行くのかについてお話します。保育計画や保育者としてのあり方と繋げながら単なる経営ではなく、幼児教育として高い理想を目指す森のようちえんを作るには何が求められるのかあきらかにしたいと思っています。たくさんの質問、悩みを持ち込んでください。私が30年以上に渡って経験してきた中から出来るだけお答えしたいと思っています。

タイトル：A3 「森のようちえん」での子どもの発達保証を考える

～子育て応援かざぐるま2才児の森のようちえん「トコトコくらぶ」の実践から

講師：山田智子（やまだともこ）NPO 法人子育て応援かざぐるま代表理事・札幌大谷大学短期大学部 保育科非常勤講師

「かざぐるま」は、全ての子どもが安心して心豊かに育つことが保障される地域社会の実現を目的に、2つの子育てひろばやひろばでの預かり保育、2才児の森のようちえん、訪問保育などの活動を行い、子どもの心身の成長発達をふまえた保育や子育て支援の実践を目指し、より効果的で無理のない

保育や子育てのあり方を模索しています。

発達保証とは、能力だけでなく、気持ちや育つ、価値意識が深まるなど、人格が豊かになっていくことも「成長」であり、能力の獲得と人格形成を統一的にとらえる発達観です。人はそれぞれに発達の可能性を持っており、それを最大限に引き出して人格の発達を保障し、その人のニーズを充足させることが重要だと考えています。今回の分科会では、森のようちえんの活動は、子どもの発達保証という角度から見たらどのような意味があるのかを、当法人の実践例等から考えます。

タイトル：A4 牧場で育まれる3つのもの～牧場のこども園スーホの取り組み～

講師：^{たかはしさとこ}高橋諭子（たかはしさとこ） Paard Musée・こども園スーホ

「牧場のこども園スーホ」運営。群馬県の小中学校で働いた後、認可外保育施設で自然保育に出会う。その後、北海道に移住して自然学校でイベント型の森のようちえんを5年間主催。職場が牧場に生まれ変わり、2016年から事業所内保育施設を運営することになった。

動物と遊び、動物のために働き、動物に頼りにされ、動物に頼り… 自然のリズムに従って生きる動物と一緒に暮らすことは、非言語コミュニケーション力が高まり、身体のバランスがとれ、自尊心が育つ効果を感じています。当日は牧場の現場を訪ね、子ども達が行っている馬やヤギの世話などを体験し、その手法や特徴、可能性を考えます。「牧場型森のようちえん」の提案です。

タイトル：A5 森のようちえん 父ちゃんプロジェクト ～父性の関わりを考えよう～

講師：萩原寛暢（はぎわらひろのぶ） てしかが自然学校

フリーランスの自然ガイド。2014年より「てしかが自然学校」を立ち上げ、自然体験活動等のコーディネートを手がける。家庭では2女の父で、家事育児に軸足を置く主夫でもある。北海道認定アウトドアガイド（自然）、北海道認定木育マイスター、秘密結社 主夫の友 構成員

森のようちえんに関わる「父ちゃん」に焦点を当て、主夫が運営する日本最東端の森のようちえんの事例から、森のようちえんに「父ちゃん」がどう参画していけるのかを考えていきます。「関心は高いが自分からは言い出せない父ちゃん」がいることもわかってきました。例えば「筋肉質な森のようちえん」など、新たなコンセプトや新たな手法もあるはずです。参加者のみなさんと様々な想いを共有しつつ、ゆるやかな父ちゃんネットワークの輪を作りましょう！※もちろん「父ちゃん」だけでなく、どなたでもご参加いただけます。

タイトル：A6 リスクの発見と対処 ～活動の充実と信頼を勝ち取るために～

講師：藁谷久雄（わらがひさお） 特定非営利活動法人 国際自然大学校

1998年7月に国際自然大学校 コーディネーターとして入校。現在、副理事長として野外教育、自然体験活動を普及、発展に全国を駆け回っています。キーワードは「人・自然・体験」。森のようちえん全国ネットワーク事務局長/日本アウトドアネットワーク運営委員

田中誉人（たなかたかひと） 公益財団法人 日本アウトワード・バウンド協会

ロープを使った木登りツリーイングやネイチャーゲーム等を普及し、森に流れる不思議な時間や自然を体感することで得られる「心の豊かさ」を追求。現在、公財) 日本アウトワード・バウンド協会にて冒険教育を実践。

森の活動にどんなリスクが潜んでいるのか、スタッフ間で共通認識を持っていますか？実際に活動をシュミレーションしながら、リスクの洗い出し方法と危険予知についてワークショップ形式にて考えます。また、ファーストエイドの基本的な考え方と緊急時の救急法や連絡網作りについても考え、運営上備えておかなければならない保険についての知識等も、実際の保険事例をもとに学んでいきます。

タイトル：A7 馬とのコミュニケーション

講師：山住弘明（やまずみひろあき） Paard Musée ホースプログラムインストラクター

Paard Musée（パドミュゼ）では、「森の暮らし」「農園の暮らし」「牧場の暮らし」の3つの暮らしを展開。北海道開拓・農業近代化において中心的な役割を果たした、在来和種馬である“どさんこ”を中心に、大自然の中で生き物本来の暮らしや文化を体験することができる牧場を運営しています。

馬とのコミュニケーションとは？馬の事を知ること、動き方など、「グラウンドワーク」を通じて学びます。実際に馬を動かしたり、リーディングを一緒に体験します。馬とのコミュニケーションを通

じ、馬に学ぶことで、自分自身の考え方や他者との関わり方などが変化していきます。

タイトル：A8 森で歌おう！奏でよう！ ～ウクレレと手作り楽器で音を楽しむ～

講師：小林直美（こばやしなおみ） 森のたんけんたい

名古屋市で幼稚園に5年勤めたのち、1992年自然の中の保育と出会い、1997年愛知県春日井市に「森のたんけんたい」を立ちあげる。好きな物：歌、虫、植物、人形劇

歌は「声」でどこでも楽しむことができます。声の他にも、いろんな音があるとまた音楽の楽しみがふくらみます。今回はウクレレなどの楽器を持ち寄り、身近な素材で簡単な楽器を作って、一緒に歌い、奏でましょう。持ち運び可能な楽器（ウクレレ、ミニカホン、カスタネット、鈴、タンバリン、オカリナ、リコーダーなど）をひとつお持ちください。ウクレレ初心者大歓迎！「森のようちえんのうた」他、すぐに弾けて楽しい曲をいくつか用意します。

タイトル：B1 【森のようちえんの社会化②（長野型）】

森のようちえんは境界線を越えることができるのか？ —社会化の過程から考える—

講師：小林成親（こばやしなるちか） 山の遊び舎 はらぺこ

小さな村の小さな小さな公立保育園の保育者を経て、2005年から保護者とともに「山の遊び舎はらぺこ」を立ち上げ現在に至る。

小菅江美（こすげえみ） NPO法人 緑とくらしの学校 森のようちえん てくてく

小学校勤務時代に飼っていたポニーを引き取り、キャンプ場にて野外教育の道を探り始め、2004年にデンマークの森の幼稚園を視察後、上越市で森のようちえんをはじめ。子どもたちの心が動くところに学びがあることを実感し、講演や執筆活動もしながら、森のようちえんの普及に努めている。

山口美和（やまぐちみわ） 長野県短期大学/東京大学大学院教育学研究科（院生）

専門は教育哲学。長野県の「信州型自然保育認定制度」創設に関わったことをきっかけに、全国の「森のようちえん」の調査を行う。信州型自然保育認定委員（2015-2016）。

竹内延彦（たけうちのぶひこ） 長野県次世代サポート課

心理学を専攻する大学院生時代に出会ったフリースクール活動を原点に、企業、NPO、行政と立場は変われど一貫して子ども若者支援に携わる。長野県庁次世代サポート課に採用され6年目、幼児期から40代まで包摂的な支援施策に日々取り組む。

ネットワークの社会化部会ではこれまで行政とのかかわりの中で森のようちえんの社会化について考えてきました。今回は長野県独自の取り組みの中でその制度作りに関わった全ての人たちが、それぞれの立場の境界線を越えて「子どもと自然」ということに心を寄せることができた過程を振り返りながら、これからのありようを、各地の最新の状況も交えながら考えていきます。ゲストに長野県次世代サポート課 竹内延彦氏と長野県短期大学 山口美和氏を始め、県で森のようちえん制度化に向けて取り組んでいらっしゃる行政担当者のみなさんを迎え、それぞれの状況を報告して頂く予定です。

タイトル：B2 自然体験業界と保育業界＋行政との協同事例の掘り起こし

講師：田中 住幸（たなかすみゆき） NPO 法人あそベンチャースクール

子ども自然体験活動の指導に携わって20年経ちました。色々なことに取り組んできましたが、最近は身近な自然、幼児、感覚を使ったあそびをテーマに活動しています。札幌で子ども向けの自然学校を運営しながら、保育者養成校で非常勤講師もしています。

札幌市西区がまちづくりの一環として行っている区内の幼稚園や保育園への自然体験活動指導者の派遣事業「エコキッズ・プログラム」を例に、自然体験指導者（自然学校）と保育者（幼稚園・保育所）＋行政の協同の可能性を探ります。「子ども達に森（自然）を案内したい。」自然体験指導者の思いと、「子ども達を森（自然の中に）に連れて行きたい。」保育者の思いが出会うと、幼児自然体験の新しいスタイルが生まれそうです。

**タイトル：B3 地域と共に育む 木育・食育・自然教育
～育ちあう“森のようちえん”を目指して～**

講師：斎藤恵（さいとうめぐみ） 認定こども園 どんぐり

認定こども園どんぐりは、0歳から就学前までの元気な子どもたちが集う園です。『木育・食育・自然教育』を保育・教育コンセプトとして、七飯町の恵まれた自然・環境の中で、多くの方々の支えを受け、『共育』を目指した保育・教育を目指しています。

小さな託児所からスタートした本園が、創立当初から掲げてきた『木育・食育・自然教育』の3本柱を軸に、『森のようちえん』を展開する中で、地域のみなさんに支えていただいている保育活動などをご紹介しますと共に、こどもたちはもちろん！大人も共に育ちあう園であるための思いや課題を示しながら、集う皆さんと一緒に、それぞれの『森のようちえん』について意見を交わし、共に考えてみたいと思います。

タイトル：B4 子ども達が輝く「場」ってどんなところ？

～日本最北の森のようちえんと一緒に考えよう！～

講師：伊藤輝之（いとうてるゆき） ゆうち自然学校

ゆうち自然学校代表。自然体験教育や環境教育の体験活動を道内各地で実践。2007年9月に稚内市上勇知へ移住し、日本最北の自然学校「ゆうち自然学校」を立ち上げる。最近、乳幼児を持つ親子の野遊び活動が盛り上がってきている！

「森のようちえん」は様々な自然体験を通して、子ども達にいろいろなことを学んでもらう場。何より楽しんで笑顔輝く場であって欲しいと思います。日本最北の自然学校「ゆうち自然学校」の実践例を紹介しつつ、「子どもの遊びとは何か？」「どんな場が必要か？」「それを支援するとは？」にフォーカスをあて「笑顔があふれ、学びが多い森のようちえんの方法論」を考えます。

タイトル：B5 「見守り、待つ保育」のプロセスをのぞく

講師：野澤俊索（のざわしゅんさく）

森のようちえんさんぽみち、NPO法人ネイチャーマジック

兵庫県西宮市にて、森のようちえんさんぽみちを運営。森のようちえん全国ネットワーク運営委員。

森のようちえんの保育において、「待つ」や「見守り」というキーワードに、多くの方が頭を悩ませ議論してきました。では一体なぜ、悩むのでしょうか。そこにヒントがあるような気がします。答えはきっと奥の方。教えてもらうのではなくて、みんなでのぞきに行きましょう♪

タイトル：B6 ヒヤリ・ハットから学ぶ！現場のリスクマネジメント

なかよく

講師：中能孝則（なかよくたかのり） 公益財団法人社会教育協会 日野社会教育センター

野外活動の世界に足を踏み入れて40年、改めて幼児青少年期の自然遊びの大切さを実感し、イベント型の森のようちえん&冒険学校を立ち上げて8年目、ニーズの高さに驚いています。

ヒヤリ・ハットを取り除けば大きな事故を防ぐことに大いに役に立ちます。それを大人が取り除くことも大切ですが、それ以上に子ども自らそのことに気がつくことができるようになってほしいものです。そのために森遊びの中で子どもたちが体験する小さなヒヤリ・ハット（未知への挑戦）は必要なことだと思っています。

タイトル：B7 馬の力に頼った森づくり ～馬と一緒に森づくりをしよう～

講師：加藤京子（かとうきょうこ） Paard Musée 大沼流山森づくりネットワーク

西埜将世（にしのみさとし） Paard Musée ワーキングホースインストラクター

Paard Musée（パドミュゼ）では、「森の暮らし」「農園の暮らし」「牧場の暮らし」の3つの暮らしを展開。北海道開拓・農業近代化において中心的な役割を果たした、在来和種馬である“どさんこ”を中心に、大自然の中で生き物本来の暮らしや文化を体験することができる牧場を運営しています。

日本の森林の多くは、人の手入れに寄って持続することができる里山システムを必要としています。このシステムは日本では崩壊しつつあります。そこで私たちは、馬が森を育てるという仕組みを提案します。森に馬がいることによって、子ども達が森づくりの現場に入りやすくなり、森林の持続可能性の確保につながることを体験を通じてご紹介します。

タイトル：B8 ロープ1本で作出す森遊び ～森で役立つロープワークの基本と実践～

講師：田中菅人（たなかたかひと） 公益財団法人 日本アウトワード・バウンド協会

ロープを使った木登りツリーイングやネイチャーゲーム等を普及し、森に流れる不思議な時間や自然を体感することで得られる「心の豊かさ」を追求。現在、公財)日本アウトワード・バウンド協会にて冒険教育を実践。

森の活動で木にブランコをかけたり、崖のぼりにロープを設置したりすることがあります。でも、確かなロープワークは学んだことがありますか？ロープが切れたり外れたりするのは、実はロープワークと材質の見分けができていないのです。ちょっとした基本を知っていたり、道具を工夫するだけで、あなたはもうロープの魔術師。ロープを使ってより安全に楽しく活動を実践していきましょう。

**タイトル：C1 【森のようちえんの社会化③（鳥取型）】
豊かな子育てと地方創生につなぐ「森のようちえん」認証制度**

**講師：井上靖朗（鳥取県福祉保健部子育て王国推進局）
西村早栄子（NPO 法人智頭町森のようちえん まるとんぼう）、
木俣 知大（公益社団法人国土緑化推進機構）**

全国に先駆けて森のようちえんの認証制度を創設した鳥取県では、本年度から運営費補助に加えて第3子以降及び低所得世代の第2子の保育料の軽減化も開始するなど、支援策を充実させています。そして、認証制度の創設を契機に森のようちえんの設立が進むとともに、移住者も増加しており、地方創生の施策としても全国から注目が高まっています。

そこで、鳥取県の担当部署から認証制度の概要や新たな支援策について、また認証制度の創設に携わってきた「智頭町森のようちえん まるとんぼう」の西村さんから、認証制度が地域に及ぼす移住・定住や地域の活性化などの効果をご紹介頂きながら、豊かな子育てと地方創生の双生を実現する認証制度の意義と可能性を探ります。

タイトル：C2 世界の森のようちえん

講師：横田聖美（よこたきよみ） バンビーノの森

河口湖で1998年からカントリーレイクシステムズ（自然学校）を運営。2007年4月Fuji こどもの家バンビーノの森（森のようちえんとモンテッソーリ）をスタート、本年8月保育機能施設型認定こども園の認定を受ける。

なかよく

中 能孝則（なかよくたかのり） 公益財団法人社会教育協会 日野社会教育センター

野外活動の世界に足を踏み入れて40年、改めて幼児青少年期の自然遊びの大切さを実感し、イベント型方の森のようちえん&冒険学校を立ち上げて8年目、ニーズの高さに驚いています。

関山隆一（せきやまりゆういち） NPO 法人もあなキッズ自然楽校

1971年神奈川県生まれ。1998年ニュージーランドに渡り現地ガイドとして働く。その後パタゴニア日本支社を經由して2007年NPOもあなキッズ自然楽校設立（2009年法人化）。Think globally, act locallyをコンセプトに、幼小児期からの自然体験活動を試み長期的な子育て支援環境を確立していく。

小菅江美（こすげえみ） NPO法人 緑とくらしの学校 森のようちえん てくてく

小学校勤務時代に飼っていたポニーを引き取り、キャンプ場にて野外教育の道を探り始め、2004年にデンマークの森の幼稚園を視察後、上越市で森のようちえんをはじめ。子どもたちの心が動くところに学びがあることを実感し、講演や執筆活動もしながら、森のようちえんの普及に努めている。

森のようちえん発祥の地と言われるデンマークと、森のようちえんに注目が集まり始めたカナダの、森のようちえんや子育て事情などを紹介します。

**タイトル：C3 子ども・子育て支援新制度の保育の質の確保と森のようちえんの役割について考える
—函館を魅力的な子育てができる街にするための森のようちえんの活用法—**

講師：穴澤剛行（あなざわたけゆき）（一社）子どものチカラ研究会北海道支部（函館保育連絡会会長）

自身の長女次女長男が通う函館市のつくしの子保育園と共に森のようちえん活動に取組む。父母と保育士と学童指導員で構成される函館保育連絡会の会長として函館の自然保育を推進している。

海と山に囲まれた豊かな函館の自然の中で、日々の泥んこ保育や3泊4日の年長合宿を通じて自然保育を続ける函館つくしの子保育園の実践例を紐解きながら、2号3号認定の子ども達が通う保育所や認定子ども園が森のようちえんに取組む際の制度的実務的課題を抽出します。森のようちえんを活用した乳幼児期から小学校学童期にかけての非認知能力を育む保育について考えます。

タイトル：C4 森のようちえんにスポンサーをつけるには

講師：森清史（もりきよふみ） 福山醸造株式会社 企画広報課課長

北海道の老舗醤油・味噌メーカー福山醸造株式会社で広報・企画・ブランドマネージメントを担当。企業スポンサーの立場で各種企画への協賛をする一方で、自信もスタッフとして参画し、味噌作り教室などのプログラムを実施している。

企業スポンサーによる森のようちえんの継続運営に向けて、アニマドレーの事例から、その成果と課題を共有し、企業スポンサーの可能性を考えます。企業が支援したくなる森のようちえんの体裁や条件、価値とは何かを考えます。

タイトル：C5 森のようちえん実践例～様々な想いとカタチと子どもの育ち～

講師：野村直子（のむら なおこ） new education LittleTree

子どもと自然環境に関わり約20年。国内外での保育と自然体験活動などの経験を重ね、“森のようちえん”に関わる。小規模保育室園長や自然学校などの経験を生かし、保育園・幼稚園研修、講演会、ブログなどを通して、新しい保育・教育の視点を提案し、保育の質を伝えている。

沼倉幸子（ぬまくらさちこ） 一般社団法人森のようちえんはっぴー

野外幼児教育(一社)森のようちえんはっぴー代表。千葉市私立幼稚園に11年間勤務。もういちど保育の世界で働きたいと考えていたときに森のようちえんと出会う。2008年4月から千葉県南房総市で活動を始め現在6年目。

佐藤有里（さとうゆり） 森のようちえん 谷保のそらっこ

1974年生まれ。千葉県野田市育ち。学生時代、野外教育を学び、幼児・小・中学生対象の乗馬、スキー、登山等の野外体験活動の指導に関わる。出産、育児をしながら、お外であそぼう！0,1,2歳の子育ての輪をテーマに、子育て応援団体を運営。年長から中学2年生まで、3男2女のママ。

様々なカタチがある日本の森のようちえん。どれくらいの頻度で活動しているのか、どんな人が関わっているのか、どんな場所で活動しているのか、どんな活動をしているのか・・・その中で大切にしている想いは何なのか・・・などによって活動の様子や子ども達の姿もガラリと変わります。3名の実践者が、日常型海辺の活動・都市の畑を利用した活動・乳児を対象とした活動・週1回の活動などの実践事例を紹介し、どんなカタチでどんな中身（保育）を行っているのかをお話します。

**タイトル：C6 実践者と語る森のようちえんが大切にしたいこと
～森のようちえんのコンセプト分析を交えて～**

講師：佐々木豊志（ささきとよし） 一般社団法人くりこま高原自然学校 代表理事

岩手県生まれ、筑波大学で野外教育を学び、15年間の東京生活を経て、96年にくりこま高原自然学校を設立。2005年第1回森のようちえん全国交流フォーラムを企画。宮城大学大学院事業構想学研究科博士課程。事業構想学博士。

菊田文夫（きくたふみお） 聖路加国際大学基盤領域・准教授

新潟生まれ、神戸で育つ。東京大学大学院教育学研究科博士課程、大妻女子大学人間生活科学研究所助手を経て現職。博士（学術）。専門は、健康教育学、いのちの教育、体験学習法。

幼少期の発育発達の過程において“森のようちえん”の特徴と言える「自然環境の中での体験」が有効であることを一般化するために、現場で子たちに関わる保育者の関わり方の手法、方法論を一般化する、所謂コンセプトが必要だと思います。それぞれの実践者が大切にしているコンセプトに基づく“森のようちえん”の保育・教育手法を明らかにするための試みの調査・研究の事例を報告し、実践者が大切にしていることなどの意見を交えて、“森のようちえん”の特徴的な指導論の意見交換を行います。

タイトル：C7 ホースセラピーって何だろう？

講師：渡部真子（わたなべまこ） Paard Musée ホースディビジョンチーフ

荻野佳容（おぎのかよう） Paard Musée ホースセラピー事業管理責任者

Paard Musée（パドミュゼ）では、「森の暮らし」「農園の暮らし」「牧場の暮らし」の3つの暮らしを展開。北海道開拓・農業近代化において中心的な役割を果たした、在来和種馬である“どさんこ”を中心に、大自然の中で生き物本来の暮らしや文化を体験することができる牧場を運営しています。

心や体をケアするホースアシステッドセラピー。馬との関わりや暮らしを中心とした、牧場の暮らしのセラピーをご紹介します。感覚統合理論をベースとしたホースセラピーについて30分間の座学と、実際に馬に触れる体験を通じ、運動の効果や生きる力への効果を感じていただきます。

タイトル：C8 北海道の函館周辺地域における木育活動の事例報告と木育体験

講師：早坂健二（はやさかけんじ） 北海道木育マスター

道南森町にある製材・プレカット会社にCADオペレーターとして勤務。2015年度木育マスターに認定。「木育マスター道南支部」とは、北海道が推奨する「木育」の基本理念に基づき、木と親しむ文化を広める、道が認定する木育マスターです。道南地域において、より連携を深め本格的な活動とするため、2013年10月より設立しました。

木育とは、木育マスターとは何か？道南地域における木育マスターの活動事例を紹介する。木育マスターの職業・世代は幅広く、さらに専門家の力も借りて、手軽にできるものから、ダイナミックなものまで様々な体験活動を行っている。分科会では、そんな木育の一部を体験して頂きながら、今後の活動に活かす意見交換がしたいと考えている。

【クロージング】

タイトル：「ふりかえり みなさん、明日から何に取り組めますか？」

講師：森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道実行委員会

フォーラムに参加して得たことや感じたこと、あるいは、新たに沸き起こった疑問などを、参加者どうしで話し合います。そして、単に「面白かった、ためになった」で終わるのではなく、「自分の町に戻ったら、早速これをやる、あれに取り組む」という自身のアクションを引き出します。

【託児】

フォーラムのプログラム実施中は地域の方々にご協力いただき、1～2歳児の託児をお引き受けする体制を整えております。託児を希望の方は、事前にお申し込みください。（最大20名程度の受け入れを想定しております 無料）。

- (1) 11月4日（金） 全体会 13:00～16:00 婦人会館のみに設置
- (2) 11月5日（土） 分科会A 8:30～10:40
分科会B 11:00～13:10
分科会C 14:00～16:10

5日は、婦人会館・国際セミナーハウス・Paard Musée それぞれに設置しております。託児は分科会の会場にお子様をお預けください。

- (3) 11月6日（日） 全体会 8:30～11:30 婦人会館のみに設置

【幼児～小学生向けプログラム】

大沼流山牧場「Paard Musée」スタッフによる幼児および小学生向けプログラム「野遊び」「牧場のこども園」を実施いたします。4日・6日は婦人会館周辺での野遊び、5日はPaard Muséeでの活動です。参加費をお支払いいただきますと、牧場に暮らしている子どもや保護者、地域の方、そして色々な動物との暮らしをテーマにしたプログラムに参加いただけます。（いずれも定員 幼児20名 小学生15名）

- (1) 11月4日（金） 野遊び 13:00～16:00 場所 婦人会館隣もしくは大沼公園周辺
- (2) 11月5日（土） 牧場のこども園 8:30～16:10 場所 Paard Musée 内
- (3) 11月6日（日） 野遊び 9:00～11:30 場所 婦人会館隣もしくは大沼公園周辺

14. 参加費・食事

(1) 参加費一覧（単位；円）

	参加費	食事代	情報交換	合計
		(1日目・2日目夕食1,500円 2日目昼食1,000円)	会費(1日目・2日目各500円)	

全日程 一般	13,000 円	4,000 円	1,000 円	18,000 円
全日程 ネットワーク会員	11,000 円	4,000 円	1,000 円	16,000 円
全日程 小学生	5,000 円	3,000 円		8,000 円
全日程 幼児	3,000 円	3,000 円		6,000 円
日帰り 一般 4 日 (金)	4,000 円	1,500 円※	500 円※	6,000 円
日帰り 一般 5 日 (土)	7,000 円	2,500 円※	500 円※	10,000 円
日帰り 一般 6 日 (日)	4,000 円			4,000 円
日帰り 幼児・小学生 4 日 (金)	1,000 円	1,000 円※		2,000 円
日帰り 幼児・小学生 5 日 (土)	3,000 円	1,000 円※		4,000 円
日帰り 幼児・小学生 6 日 (日)	1,000 円			1,000 円

※日帰りの参加者の方につきましては、参加日の夕食・昼食・情報交換会の有無について事前にお知らせください。

- ① 大人は中学生以上、幼児は3歳から6歳の未就学児です。
- ② 小学生及び幼児の「参加費」は、小学生用及び幼児用プログラムへの参加費です。
- ③ キャンセル料については、参加決定通知を送付する際に、併せて連絡します。

(2) 食費について

- ① 全日程参加には、4日の夕食、5日の昼食・夕食が含まれます。
食費の内訳は、以下の通りです。

	食事代			情報交換会費
	朝食	昼食	夕食	
大人(中学生以上)	(各自)	1,000 円	1,500 円	4 日 500 円 5 日 500 円
小学生	(各自)	1,000 円	1,000 円	無料
幼児	(各自)	1,000 円	1,000 円	無料

- ① 4日(金)・5日(土)の情報交換会は夕食を兼ねています。
- ② 6日(日)の閉会後の昼食は、希望者のみお弁当を用意します(事前予約)。

(3) 食事について

- ① 食事はバイキング方式です。
- ② 各種アレルギー反応に対応した特別食の準備はしません。

(4) 傷害保険の補償内容について(全ての対象者)

死亡・後遺障害	1,000 万円
入院	10,000 円/日
通院	6,000 円/日

(5) 参加費支払いについて

下記口座にお振込ください。振込を通帳にて確認次第、参加決定とさせていただきます。
(恐れ入りますが、振込手数料は各自にてご負担ください)

苫小牧信用金庫 美園支店 普通口座 1505202

「第12回森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道実行委員会 会長 上田 融」

15. 交通アクセスについて

全体会場である南北海道大沼婦人会館・林業研修センター（以下婦人会館）へお集まりください。大沼周辺の宿舎及び分科会会場には、実行委員会で準備する車両で送迎いたします。

(1) JR

- ① JR 大沼公園駅（特急スーパー北斗・北斗停車駅）下車徒歩5分
- ② JR 函館駅から特急で約22分～30分（1,680円）普通列車で47分（540円）

(2) 飛行機

- ① 最寄り空港は、函館空港です。
- ② 新千歳空港から快速エアポート・特急スーパー北斗 or 北斗に乗って約180分

(3) 路線バス

- ① JR 新函館北斗駅（北海道新幹線・特急スーパー北斗・北斗停車駅）より路線バス（大沼交通 大人720円小人360円）で約30分→「大沼公園ポロト館前」下車徒歩8分
- ② 函館空港から路線バス（大沼交通 大人1,240円小人620円）で約70分

(4) レンタカー

- ① 函館空港から 産業道路・函館新道・国道5号線経由で約45分
- ② JR 新函館北斗駅から 国道5号線経由で約15分

16. 宿泊の案内

今回のフォーラムでは、各自で宿泊場所を手配・予約していただくことになっております。下記情報を参照ください。

<七飯大沼国際観光コンベンション協会 HP>

大沼地域の宿泊場所を掲載しております。 <http://onumakouen.com/>

<Paard Musée 内 簡易宿泊棟>

キャンプコテージ風の1棟最大20人定員の2段ベッド棟です。男女別棟、ドミトリー形式です。トイレ・洗面・電源完備。お風呂（温泉）は別棟にございます。前泊・後泊も可能です。1泊朝食付き 大人3,000円 子ども2,500円

申込方法

Paard Musée へ電話またはメールで申込 TEL：0138-67-3339

Mail：info@paardmusee.com

※森のようちえん全国フォーラムに参加の旨をお申し出下さい。（担当：北川）

<大沼プリンスホテル>

大沼のリゾートホテルです。1泊朝食付き 大人・子ども同額。

3名1室利用 5,500円

2名1室利用 6,500円

1名1室利用 10,800円

申込方法

大沼プリンスホテルへ電話申込 TEL：0138-67-1111

※森のようちえん全国フォーラムに参加の旨をお申し出下さい。（担当：営業部 田口様）

17. 参加申込

- (1) **申込方法** ホームページ内専用申込フォームからの申込みとなります。
- (2) **募集開始** 全日程参加（ネットワーク会員）平成28年9月1日（木）
全日程参加（一般） 9月8日（木）
日帰り参加 9月15日（木）
- (3) **応募締切** 平成28年10月19日（水） ※ただし、定員になり次第、締め切ります。
- (4) **参加決定**
 - ① 先着順とします（参加決定及び二次案内を送付します）。
 - ② 「分科会」の参加決定は事務局で調整・決定します。
- (5) **フリー分科会（4日の夜・ナイトセッション時に実施予定 30分～45分程度）**
 - ① フリー分科会の開設希望は、参加申込時に取ります。
 - ② フリー分科会開設の可否は、実行委員会が調整・決定し、申込者に連絡します。
 - ③ フリー分科会の内容は、参加者に、参加決定通知の際、伝えます。
 - ④ フリー分科会への参加については、フォーラム当日に希望を募り、調整・決定します。

18. 個人情報等について

(1) 個人情報

申し込み時に取得した個人情報は、本大会に関わる通知及び「森のようちえん全国ネットワーク」からの情報提供時に使用し、第三者への公開及び譲渡は一切しません。

(2) カメラ・ビデオ撮影

- ① 基調講演・分科会での撮影及び音声の録音は、原則として禁止とします。
- ② フォーラムにおける特定の個人への撮影は、本人の了解を得てください。
- ③ スナップ写真の撮影は可とします。しかし、自分以外の者が写った写真を、SNSに掲載する際は、その者の了解を得てください。
- ④ 報告書作成のため、全体会や分科会等で、スタッフがスナップ写真を撮影し、掲載することがあります。
- ⑤ 新聞やテレビ等の報道機関や雑誌等の取材が入る可能性があります。撮影されたくない方は、取材者に直接その旨を伝えてください。

問合せ先

第12回森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道実行委員会事務局
〒053-0047 北海道苫小牧市泉町1-5-6 特定非営利活動法人いぶり自然学校内
TEL・FAX 0144-82-7860 E-mail moriyouforum2016inhokkaido@gmail.com
HP 森のようちえん全国ネットワーク <http://morinoyouchien.org/>